

ワークショップ 5

「自己免疫性胃炎の最新知見と臨床的課題」

司会 山本 貴嗣（帝京大学医学部内科学講座）

大谷 恒史（大阪公立大学大学院医学研究科消化器内科学）

自己免疫性胃炎は壁細胞に対する自己免疫により無酸症と高ガストリン血症を呈し、特徴的な胃内細菌叢の形成や I 型神経内分泌腫瘍の発生に関与する疾患であり、自己免疫性甲状腺疾患や悪性貧血を合併する全身性疾患としても注目される。また、近年では胃腺癌リスクの再評価や *H. pylori* 感染との関連など新たな知見が蓄積している。本ワークショップでは病態や診断を含めた最新の知見と臨床的課題を整理し、今後の診療の方向性について議論する。